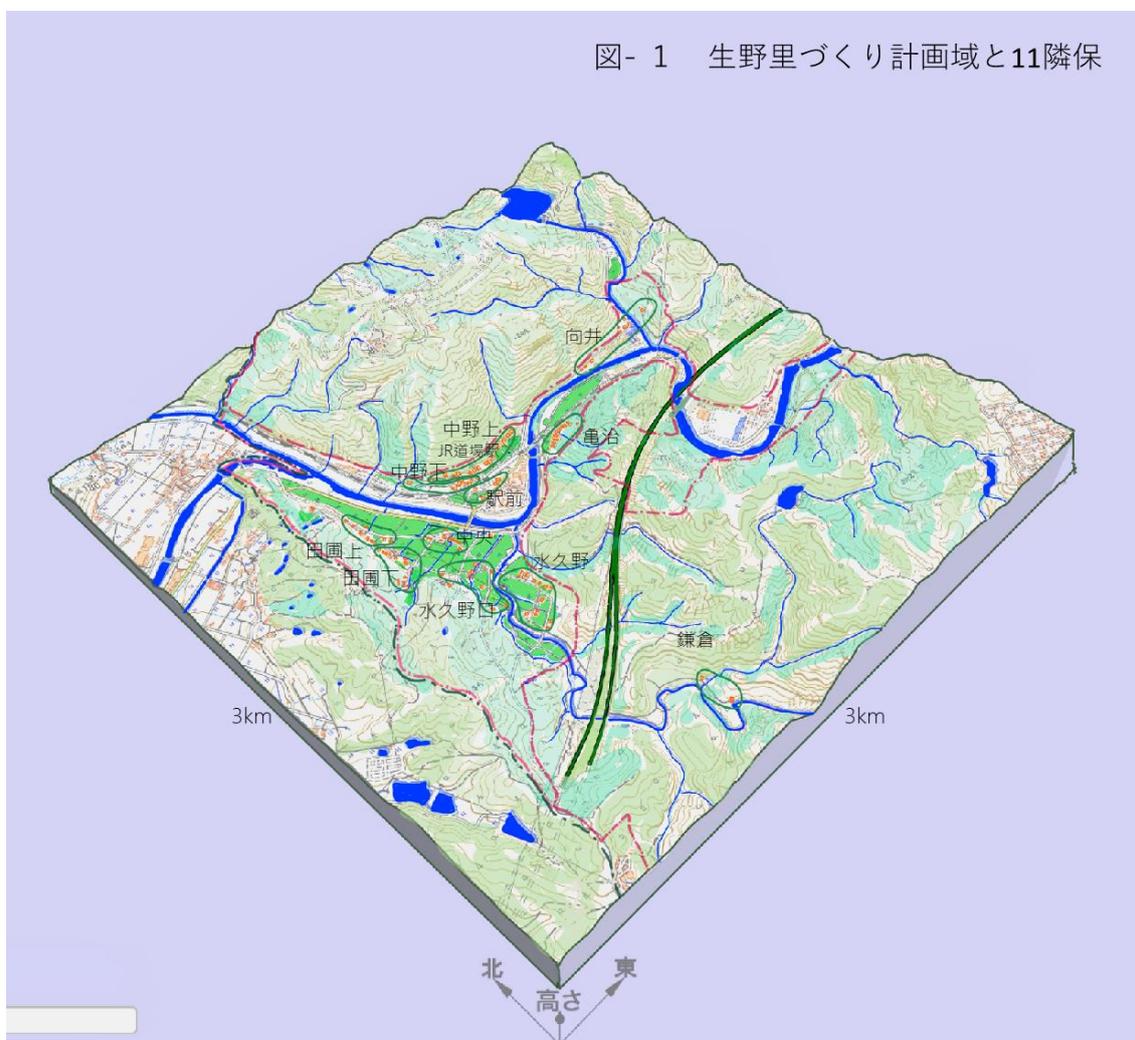


生野里づくり計画

図- 1 生野里づくり計画域と11隣保



当初：2008（平成20）年2月

変更：2025（令和7）年5月

生野里づくり協議会

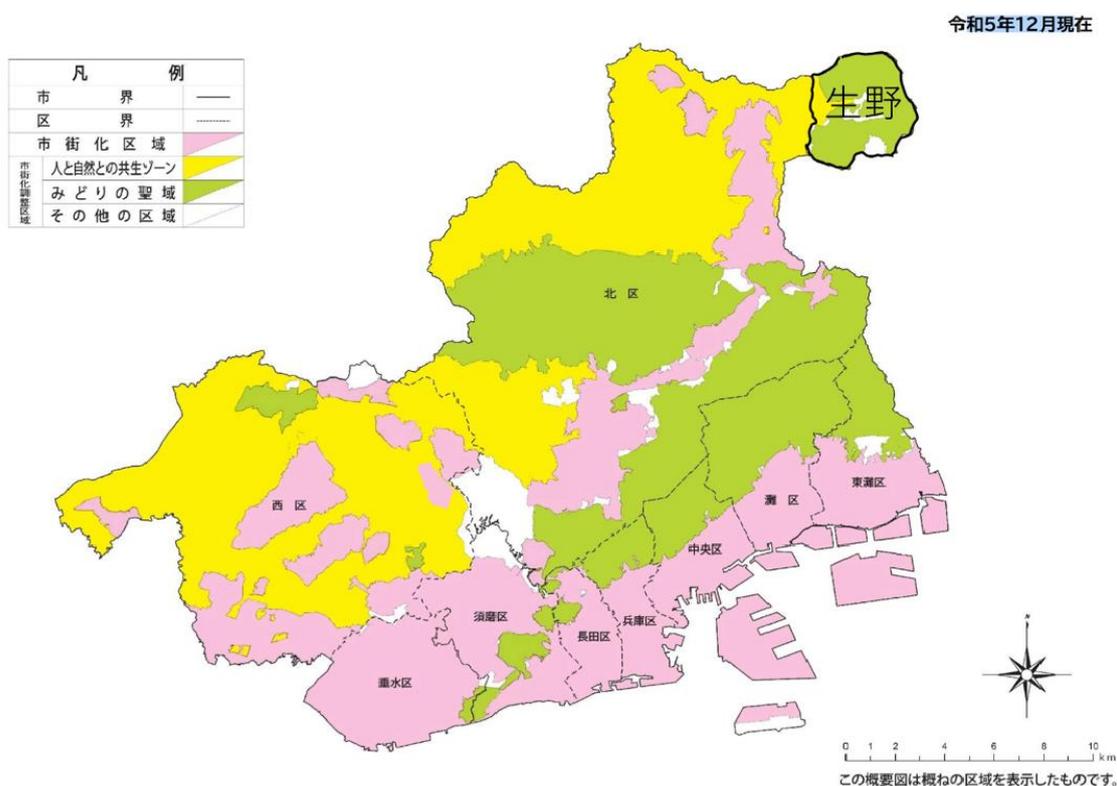
目 次

はじめに	
2024（令和6）年度生野里づくり計画の策定（見直し）に向けて	1
1章 計画地区の現況把握と課題の見直し	4
1-1 計画地区の現況（2024年度現在）	
1-2 計画地区の課題（隣保会議と現地調査の問題抽出から課題へ）	
2章 里づくり計画の見直し方針（中長期的な取り組み）	14
2-1 協働と参画	
2-2 自然との共生	
2-3 社会の安全・安心	
2-4 活力ある経済	
2-5 環境の魅力	
2-6 叡智と継承	
3章 課題解決に向けた展開（短期的な取り組み）	16
3-1 地域計画：農地維持に向けた取り組み	
3-2 竹取プロジェクト：関係する人びと増加に向けた取り組み	
3-3 太陽と緑の道再編整備計画に合わせて静ヶ池周辺の森や鎌倉峡の整備 ：共生人口増加に向けた取り組み	
3-4 定住人口増加促進：宅地や空き家利用に向けた取り組み	
4章 生野里づくりがめざす実施プログラム（住民が主体の里づくり）	20
4-1 展開する関係する人びととの協働と参画	
4-2 自然豊かな生態系の保全と形成「自然生態の学習と共生をめざして」	
4-3 秩序ある土地利用「安全と安心をめざして」	
4-4 新鮮で安全な農産物を供給する農業振興「活力ある持続型経済をめざして」	
4-5 快適な住環境の整備「整備された環境や施設の魅力増進をめざして」	
4-6 里づくりの情報発信「伝統文化の継承と情報の発信をめざして」	
5章 まとめ	28
あとがき	

はじめに 2024（令和6）年度生野里づくり計画の策定（見直し）に向けて

2008（平成20）年に設定承認された生野里づくり計画の見直しは2016（平成28）年に開始されたが、2019（令和元）年12月のCOVID19の発生により中断された。その後2022（令和4）年11月に農地の活用を目指す地域計画を進める中で、再度里づくり計画の見直しの必要性が提案され、2023（令和5）年4月に生野里づくり総会が開催され、里づくり計画見直ワーキング（XXXXXXXXXX）4名を選出した。

図-2 神戸市人と自然の共生ゾーンと生野里づくり地域



2023（令和5）年7月に生野里づくり計画見直ワーキング第1回が始まり、地域計画の中途報告に加えて、2008年策定の里づくり計画を基本とし、新たな見直し方針を立て実践することを目標に、それぞれの隣保会議では、地域の課題を抽出するために、下記のとおりを進めた。

生野隣保会議の進め方『課題発見と解決実践をW型フィードバック』

ステップ1

- ① まず自分の住む隣保を歩きめぐる。
- ② 事実を現地で把握する。

ステップ2

- ③ 把握した事実を地図上に記載。
- ④ 問題や課題を発見し、話し合い、地図上に記載。

ステップ3

- ⑤ 問題や課題の解決方法を、農業振興センターやアドバイザーと協議。
- ⑥ 短期的課題と中長期的課題ごとに実現計画を提案。

ステップ4

- ⑦ 実践する。
- ⑧ 実践後の検証をする。

ステップ5

- ⑨ 活動を公開し生野の課題を共有する。
- ⑩ ステップ5からステップ1へフィードバックして検証

これらの隣保会議と現地調査から、新たな課題を整理し、生野地区の現況把握と課題の見直しを行い（第1章）、里づくり計画の中長期的な取り組みの見直し方針をまとめた（第2章）。ついで、短期的な課題解決に向けた4つの展開（第3章）を選択し、早速竹取プロジェクト（2025年2月～3月）を亀治で実践した。

これらの成果を踏まえて、これから生野里づくりが目指す実施プログラム（第4章）をまとめた。

以上の経過から、「生野里づくり2024 計画課題（アジェンダ）」は、次のように設定した。「少子高齢化、人口流出により、地域の維持はますます困難になっている。これからは、「生野につながる人」「生野に関わる人」「生野に定住する人」を〈関係する人びと〉として増やしていくかが課題である。」

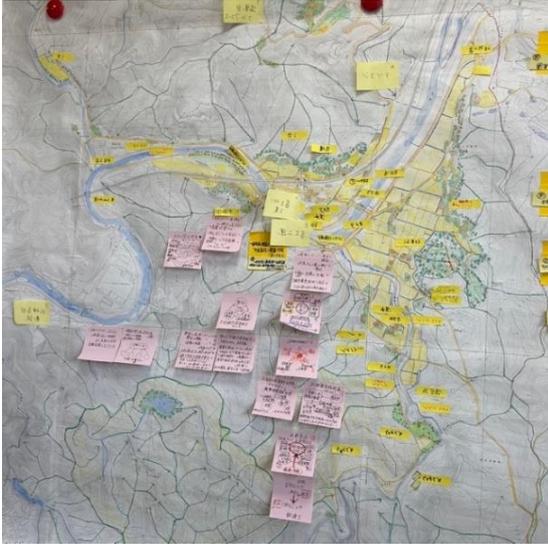
生野里づくり協議会 2024

ワーキング2024

写-1



写-2



写-3



写-4



写-5



写-1 : ワーキング
 写-2 : 付箋マップ
 写-3 : 現地調査
 写-4 : マップ作り
 写-5 : 役員会

1 章 計画地区の現況把握と課題の見直し

1-1 計画地区の現況把握（2024 年度現在）

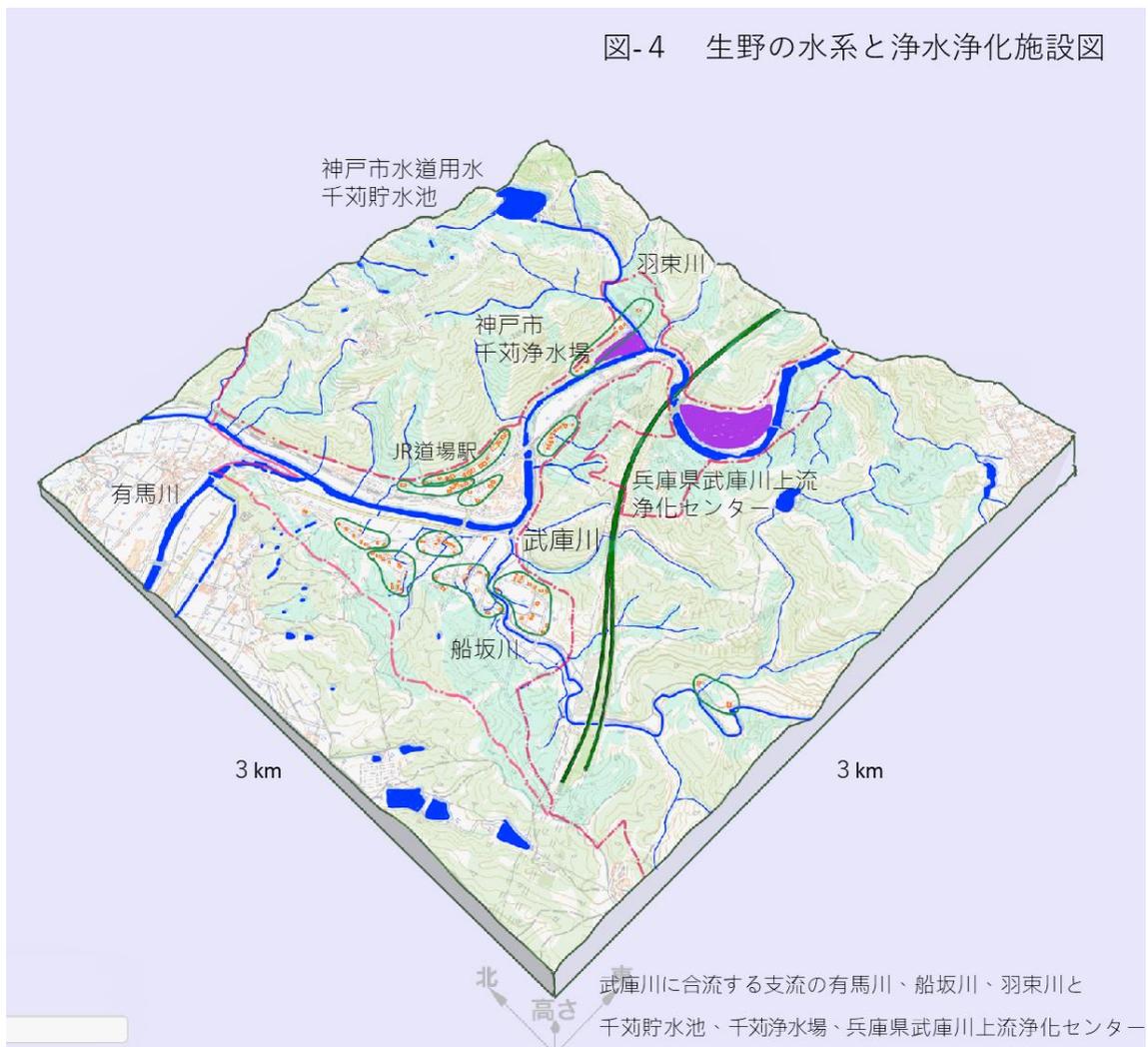
- (1) 計画地区は神戸市北区道場町の北東端に位置し、北は三田市、東は宝塚市、南は西宮市の4市に接している。

図-3 生野里づくり計画域 位置図



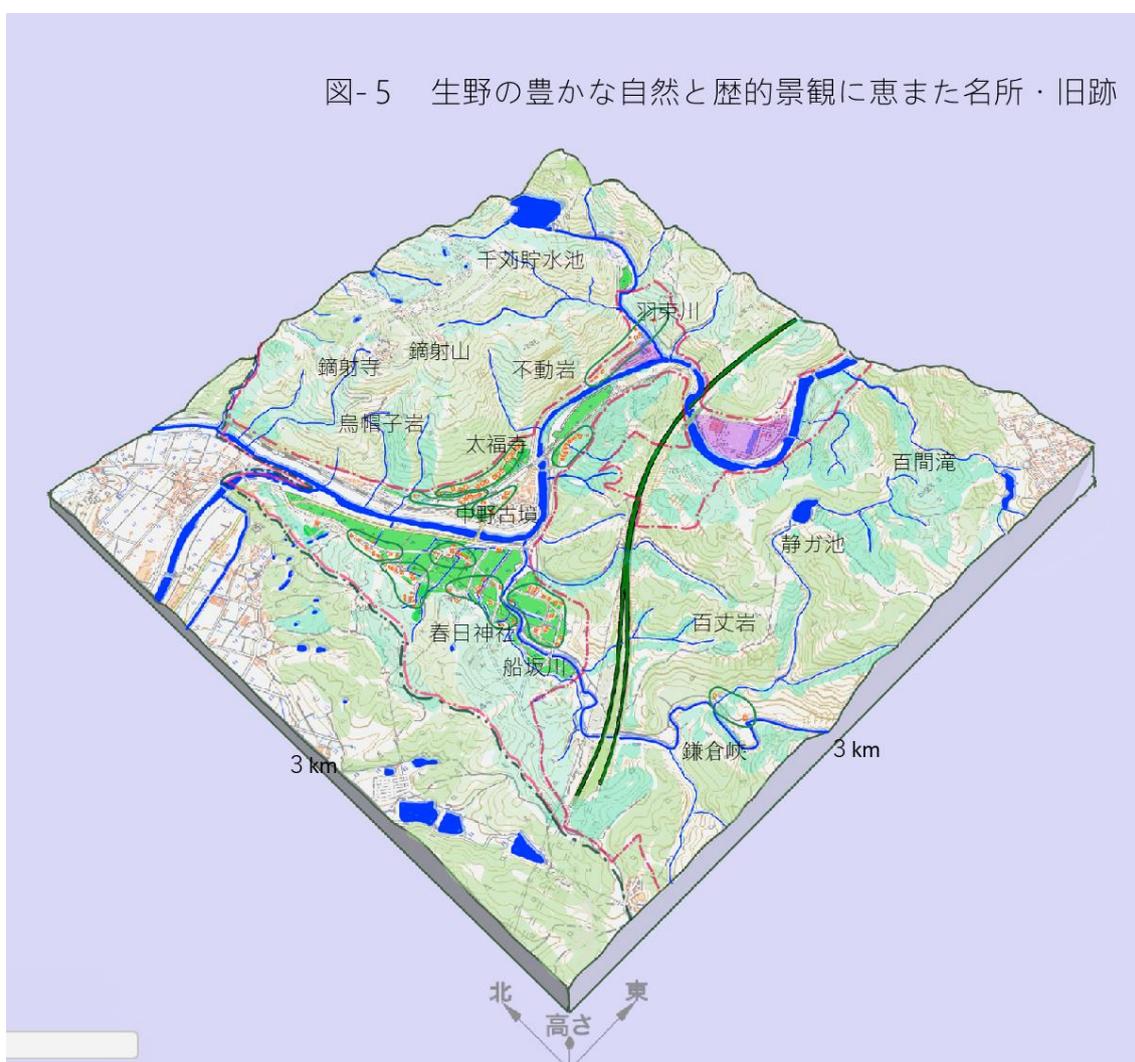
- (2) 計画地区は、北西から南に流れる武庫川の緩やかな流れの上流部と、渓谷が始まる中流部の分岐点に位置し、支流は有馬川、船坂川、羽束川が合流している。
- (3) 計画地区は神戸市の水道用水である千苺貯水池からの支流、羽束川との合流点に千苺浄水場がある。さらに約 500m 下流には兵庫県武庫川上流浄化センターがある。

図-4 生野の水系と浄水浄化施設図



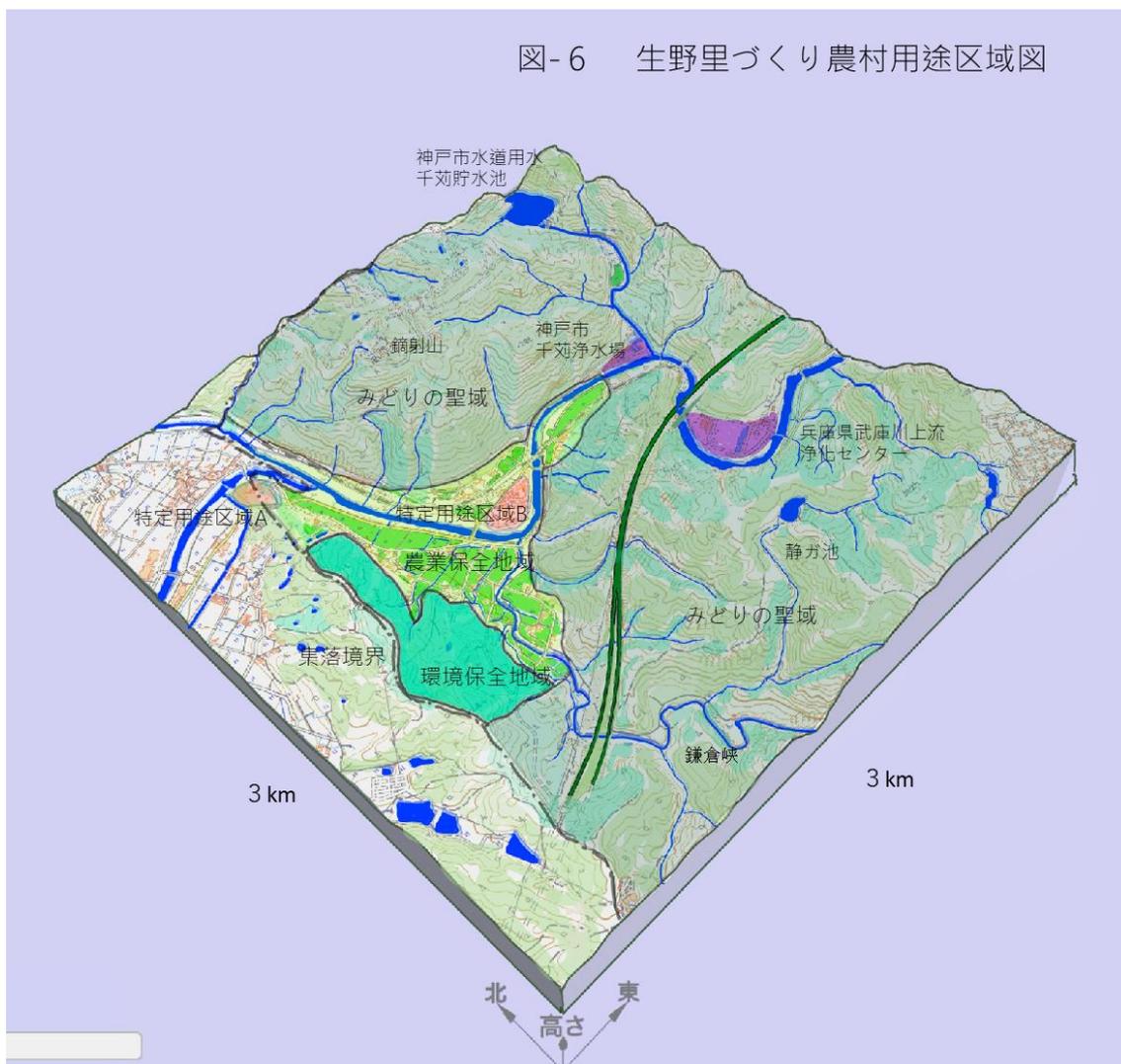
- (4) JR 福知山線が計画地区の北西から南に流れる武庫川に沿って走り、計画地区の玄関口 JR「道場駅」は大阪や阪神間への通勤通学の利便性が高い。また北西約 2.5km（車で約 20 分）の距離に神戸電鉄の始発駅「三田駅」がある。
- (5) 国道 176 号線までは車で約 5 分の距離であり、国道 176 号線を経て、中国自動車道西宮インターチェンジまで車で約 10 分の位置にある。
- (6) 計画地区に隣接した緑の聖域には、鎬射山の麓に鎬射寺、中野古墳、太福寺、不動岩、千苺貯水池、羽束川、鎌倉峽、船坂川、百丈岩、百間滝など自然豊かな歴史的景観に恵まれ、数々の名所・旧跡がある。

図-5 生野の豊かな自然と歴史的景観に恵まれた名所・旧跡



- (7) 計画地区は、全域が市街化調整区域（都市計画法）で人と自然との共生ゾーンの指定等に関する条例に基づき現況に合わせて農業保全区域、環境保全区域、特定用途 A 区域、特定用途 B 区域に指定されている。
- (8) 計画地区内の農用地区域面積は 23.1ha あり、稲作を中心とした個別完結型経営であり、加えて都市住民を対象に体験型貸し農園がある。

図-6 生野里づくり農村用途区域図



- (9) 11の居住区からなる各隣保は、微高地、河岸段丘、丘陵の麓など、洪水や地滑りから守られた安全な凸状の微地形を選び住居を配置している。上下水道は完備しているが、農業用水等に井戸水や里山の支流からの引き水を活用している。
- (10) 2025年の計画地区は67世帯147人(自治会調べ)、そのうちの総農家数は約半数の38戸を維持しているが、高齢化や後継者不足により農家人口が急激に減少しつつある。

図-7 生野の11隣保と住居の配置



生野の各隣保は、微高地、河岸段丘、丘陵の麓など、洪水や地滑りから守られた安全な凸状の微地形を選び住居を配置している。

図-8 生野里づくり計画域の航空写真 国土地理院2009年撮影



[総世帯数、総人口は国勢調査（生野高原住宅を含む）、その他は農業センサス]

項目 年度	総世帯数	総人口	総農家数等				農家人口(人)	経営耕地面積(a)				主要作物別収穫面積(a)			
			総農家数	販売農家	自給的農家	土地持ち非農家		田	畑	樹園地	合計	稲	野菜	花	飼料作物その他
2000年	461	1,316	37				159	2,114	20	—	2,134	1,174	22	—	—
2005年	457	1,273	36	25	11	1	113	1,736	1	—	1,737	985	—	—	—
2010年	433	1,175	37	25	12	0	98	1,647	171	2	1,818	978	174	—	—
2015年	432	1,064	35	24	11	1	76	2,190	32	2	2,224	1,435	—	—	—
2020年	414	899	29	19	10	0	61	1,547	—	—	1,547	1,277	—	—	—

1-2 計画地区の課題（隣保会議の意見と現地調査の問題抽出から課題へ）

(1) 隣保コミュニティによる里山の維持管理

計画地区面積の大部分を山林で占めているが、木や竹などの里山資源の消費目的がなくなって久しく、高齢化や後継者不足による維持管理が困難になり、隣保コミュニティを持続する新たな「協働と参画」のあり方が求められる。

(2) 緑の聖域・森林の保全と活用

ハイキング等で地域の豊かな自然環境を求めて、広域から多くの人々が訪れている。森林所有者協力のもと、森林を地域の資産としてとらえた取り組みが求められる。近年、近隣市町村でツキノワグマの目撃情報があることから、「農業被害」のみならず「人身被害」が懸念される。生野の緑の聖域・森林の保全と活用には、新しい「自然との共生」のあり方が求められる。



写-6：百丈岩を望む

(3) 水害や土砂災害等への災害対策

計画地区は、武庫川、有野川、有馬川、船坂川、羽束川の合流する所であり、特に水害や土砂災害については、常に危険を感じている。住民の不安もさることながら、市民生活の基となる上水と下水処理施設がある。昨今の異常気象により、予期せぬ大雨の危険が考えられ、引き続き防災避難も含めて、「地域社会の安全・安心」対策が求められる。



写-7：平成16年台風23号武庫川右岸被害

(4) 農地保全

圃場整備は完了しており、優良農地が確保されている。農家世帯は38戸で、水田農業を中心とした農業が営まれている。近年、計画地区内農業者の高齢化及び後継者不足により、担い手の確保や新たな地域農業の活性化などによる「活力ある経済活動」が望まれる。あわせてアライグマやイノシシ、シカ等による農作物の被害が起こっており、農業における獣害対策に取り組む必要がある。



写-8：生野で捕獲された鹿(2025年4月5日撮影)

(5) 生活環境の改善整備

生活に係る車での移動が、高齢化により困難になりつつある。具体的には日常生活を維持する買い物困難地域であり、通勤、通学、医療の通院等のために、新しいコミュニティ交通システムなど「生活環境の魅力」の向上が必要である。

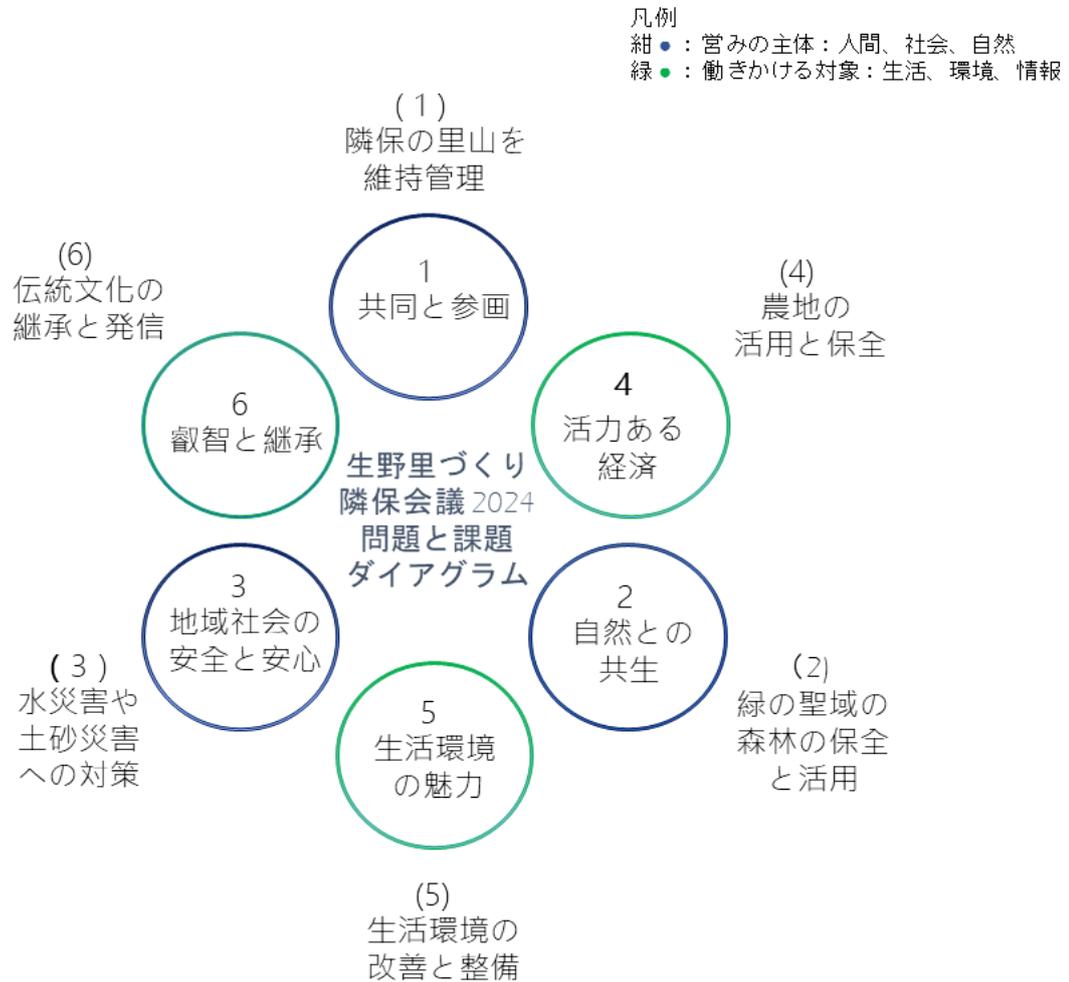
(6) 伝統文化の保存継承

計画地区固有の伝統行事を継承していくべきであるとの意向が強い。しかし高齢化や子供の減少等で、維持すら厳しい状況にあり、先人達の「叡智と継承」方策について具体的に検討していく必要がある。



写-9 : 太福寺の「雀のお頭」

図-9 生野里づくり計画地区の問題と課題ダイアグラム
 (隣保会議2024と現地調査の問題抽出から課題へ)



2章 里づくり計画の見直し方針（中長期的な取り組み）

2-1 協働と参画

- (1) 関係する人びととの共同企画プロジェクト（伝統行事など）
- (2) 生活道路、生産道路の環境美化

2-2 自然との共生

- (1) 竹林整備、里山保全活用
- (2) 鎌倉峡、静ヶ池、太陽と緑の道（ハイキング、キャンプなど）
- (3) ギフチョウおよびカンアオイの保護

2-3 社会の安全・安心

- (1) 防災避難場所の確保
- (2) コミュニティ交通などの整備

2-4 活力ある経済

- (1) 農地活用、集約運営
- (2) 体験型農園の整備
- (3) 農の担い手育成と新たな居住環境の整備

2-5 環境の魅力

- (1) JR 道場駅の利活用
- (2) ひろばの整備活用（生野中央公園周辺など）
- (3) ウォーキングルートのネットワーク

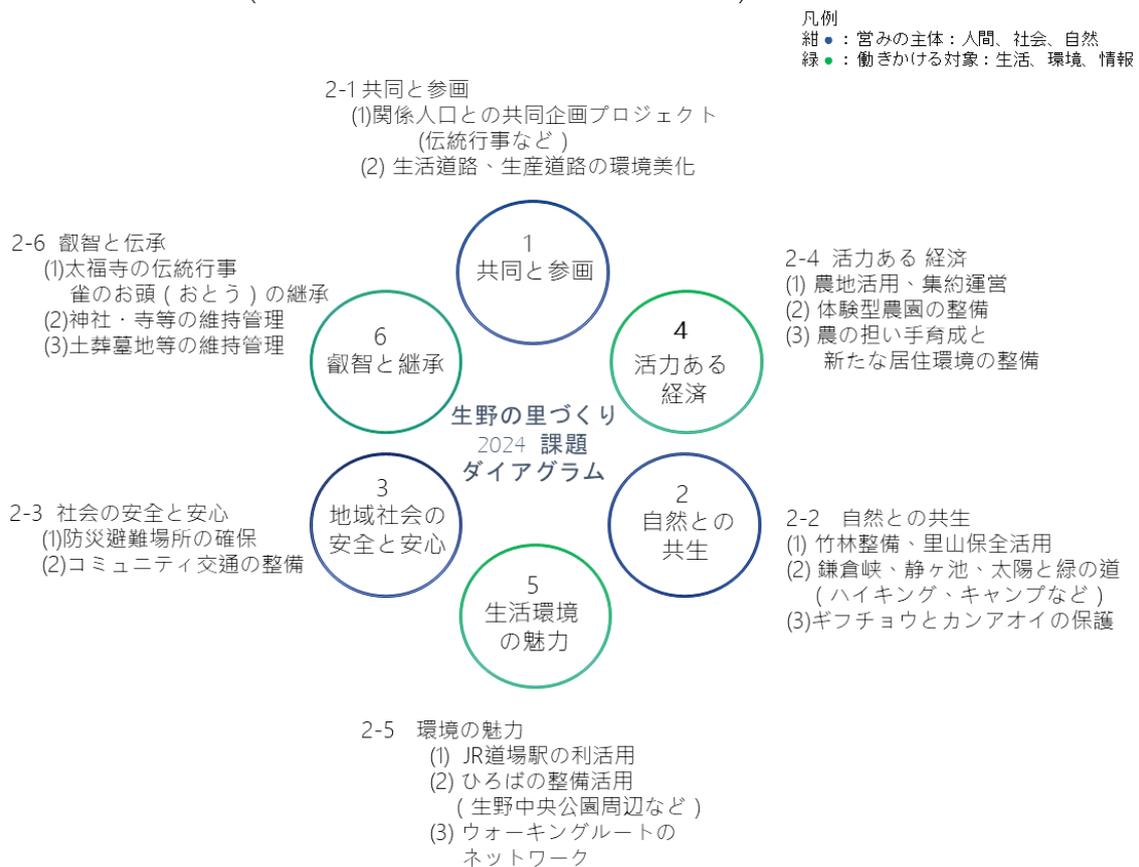
2-6 叡智と継承

- (1) 太福寺の伝統行事・雀のお頭（おとう）の継承
- (2) 神社・寺等の維持管理
- (3) 土葬墓地等の維持管理



写-10: 鎌倉峡に自生するカンアオイ (2025年4月5日撮影)

図-10 生野里づくり計画の見直し方針と課題ダイアグラム
(中・長期的な6方針と取り組み課題)



3章 課題解決に向けた展開（短期的な取り組み）

3-1 地域計画：農地維持に向けた取り組み

計画地区農業の現状を踏まえ、過大な生産目標をたてるのではなく、「維持する農業から活かす農業」へ転換する。既存の貸農園や体験農業に加え、神戸ネクストファーマー制度研修機関として認定を受けることで、農業に親しむ機会を広く設け地域への移住につなげていくとともに、多様な農業の担い手の一つとして育成することで耕作放棄地の発生を防止し、将来の新規就農にもつなげていく。研修終了後に研修生から希望がある場合、農地を斡旋できるよう調整など継続的に支援ができる体制を整える。



写-11：魚崎ピノキオクラブの田植え風景



写-12：田圃下での春の農作業風景

3-2 竹取プロジェクト：関係する人びと増加に向けた取り組み

景観や田畑の獣害対策のための竹林整備は、以前より行なっているが、2025年2月より計画地区の玄関口である JR 道場駅近くの亀治桜並木の景観を阻害している竹林を伐採した（5日間で延べ213名が参加）。参加者からは農的な暮らしや資源の再利用に興味がある、里づくりに協力したいと意見があったことから、今後は JR 道場駅を利用して、関係する人びととして関わってもらいやすい学生や都市住民に参加を呼びかけ、竹や伐採箇所の利活用についても学生や都市住民と考えていく。



写-13: 亀治武庫川堤防での竹取プロジェクト(実施前)

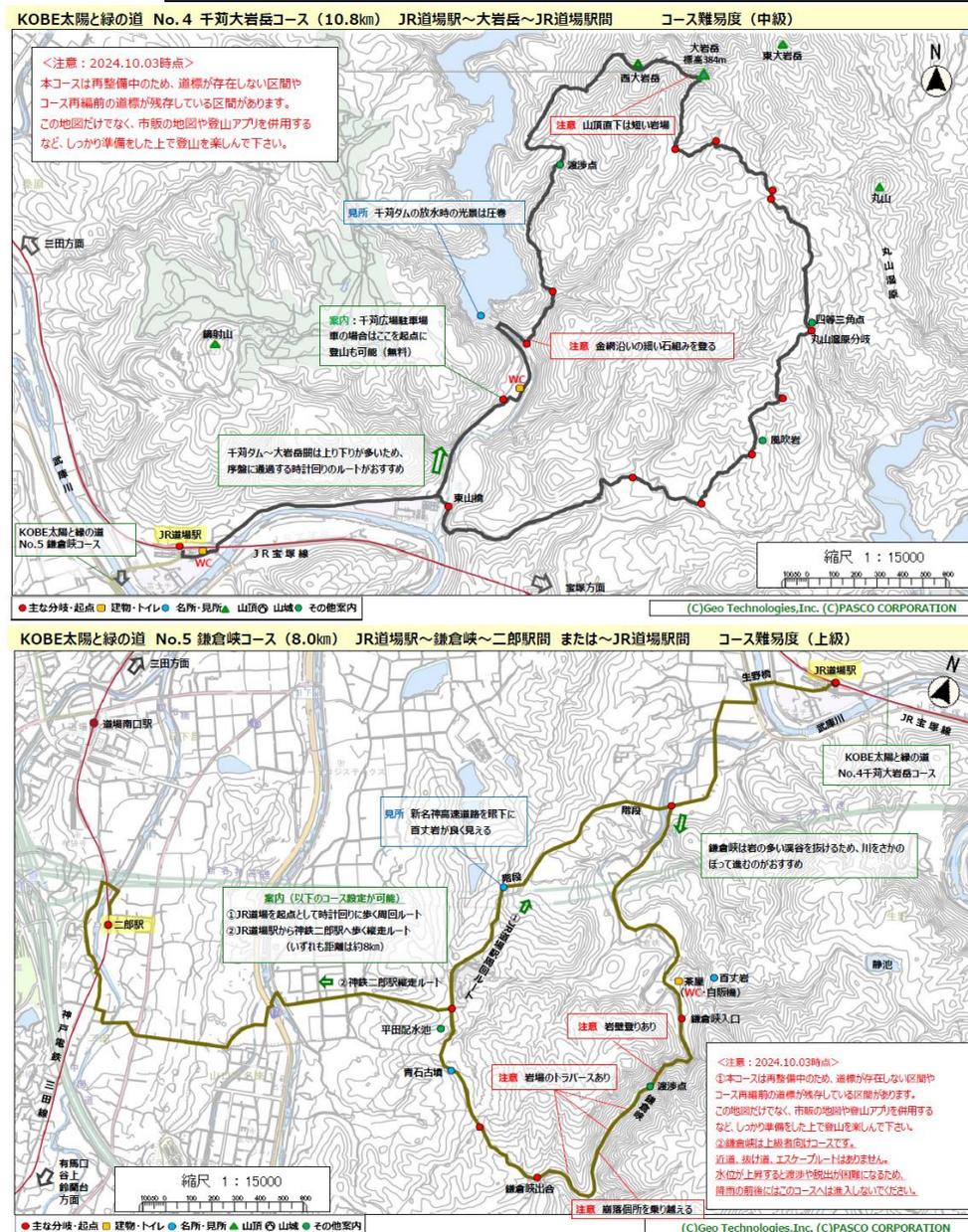


写-14: 亀治武庫川堤防での竹取プロジェクト(実施後)

3-3 太陽と緑の道再編整備計画に合わせて静ヶ池周辺の森や鎌倉峡の整備：共生人口増加に向けた取り組み

神戸市登山プロジェクトの一環として、計画地区内の神戸市制定のハイキングコース、遊歩道の整備、起点となる JR 道場駅とのネットワークを再評価し、豊かな自然環境の利用を促進する。具体的には静ヶ池周辺の森や鎌倉峡の整備・キャンプ場整備などで、初心者でも安心・安全に自然観察や山歩き体験などのアウトドアスポーツを楽しむ共生人口を取り込む。

図-11 2024年10月に再編した自然歩道「KOBE 太陽と緑の道」



3-4 定住人口増加促進：宅地や空き家利用に向けた取り組み

道場町の移住促進チーム「たすき」と連携し、計画地区内の居住可能な宅地や空き家予備軍の事前把握や移住・就農希望者との新しいマッチング手法を開発する。



写-15：空き家の状況説明の様子

図-12 課題解決に向けた6方針と4つの展開ダイアグラム
(短期的な課題解決への取り組み)

凡例
紺●：営みの主体：人間、社会、自然
緑●：働きかける対象：生活、環境、情報

3-4 定住人口の増加促進

宅地や空き家利用に向けた取り組み。道場町の移住促進チーム「たすき」と連携し、計画地区内の居住可能な宅地や空き家予備軍の事前把握や移住・就農希望者との新しいマッチング手法を開発する。

3-1 農地活用の地域計画

農地維持に向けた取り組み。「維持する農業から活かす農業」へ転換。貸農園や体験農業に加え、神戸ネクストファーマー制度研修機関認定。



3-3 竹取プロジェクト

景観や田畑の獣害対策のための竹林整備令和6年冬季より地域の玄関口であるJR道場駅近くの亀治桜並木の景観を阻害している竹林を伐採。JR道場駅を利用し、学生や都市住民に関係人口として参加を呼びかけ、竹や伐採箇所の活用を都市住民とともに考えていく。

3-3 太陽と緑の道再編に合わせた整備

静ヶ池周辺の森や鎌倉峡の整備。キャンプ場整備などで、初心者でも安心・安全に自然観察や山歩き体験などのアウトドアスポーツを楽しむ関係人口を取り込む。

4章 生野里づくりがめざす実施プログラム（住民が主体の里づくり）

4-1 展開する関係する人びととの協働と参画

※各プログラムを実践しながら、検討していく。

4-2 自然豊かな生態系の保全と形成「自然生態の学習と共生をめざして」

(1) 自然景観

千苧貯水池、不動岩、百丈岩、百間滝、鎌倉峡、屏風岩と言った美しい自然を求めて多くの都市住民が訪れる。このような美しい自然を将来にわたり良好な景観を維持していく。次世代に残したい景観について、地図上に落とし込み地域内で共有していく。

(2) KOBE 太陽と緑の道

神戸市建設局が2024年10月より「KOBE 太陽と緑の道」を再編し、より歩きやすくするための道標や案内板の整備を順次行っている。計画地区内としては新コースとして千苧大岩岳コースが新設された。これを機に生野ウォーキングのネットワーク構築を検討する。

(3) 企業等との提携による地域活性化計画

企業等と、百丈岩や不動岩、鎌倉峡などの計画地区が持つ美しい地域資源を活用し、計画地区に人を呼び込み、地域の活性化を図る仕組みを構築し、計画地区の豊かな自然を維持していく。



写-16：JR 道場駅から鎌倉峡や百丈岩を目指すハイカーやクライマーたち



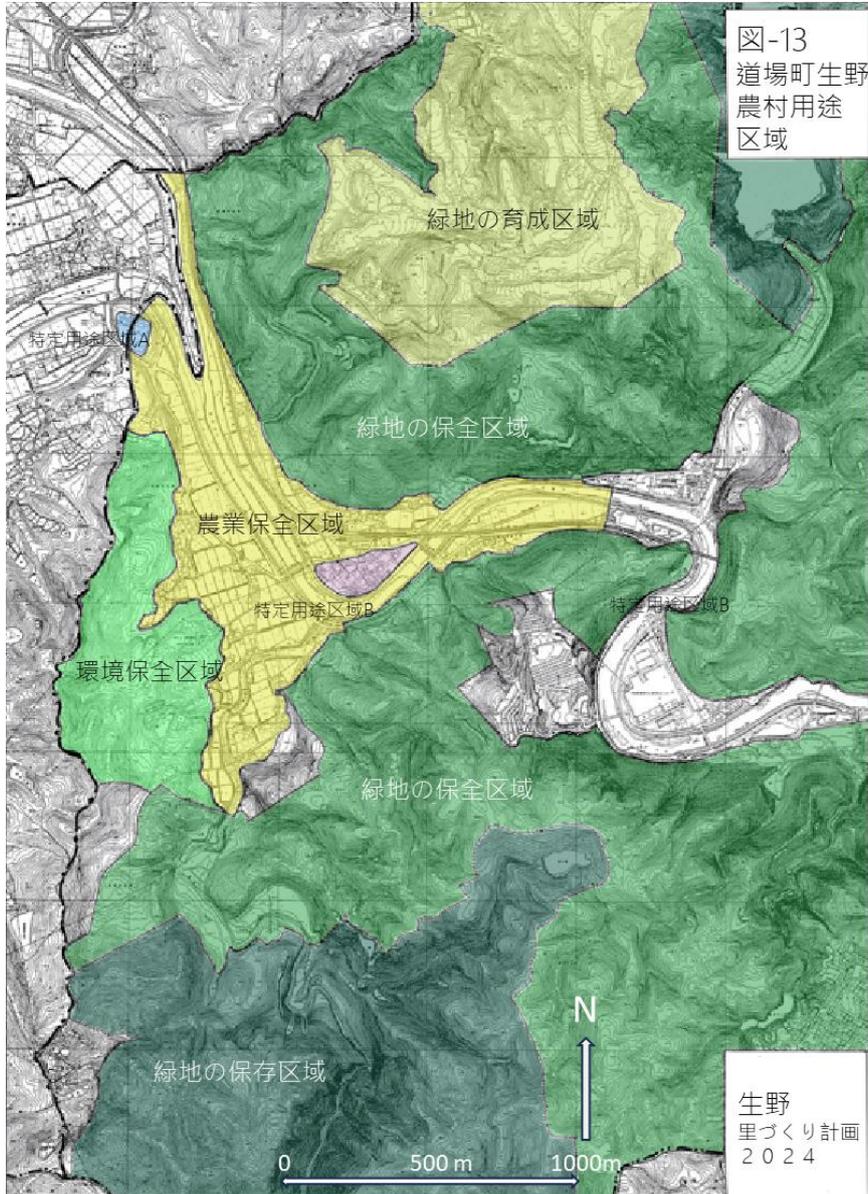
写-17: 鎌倉峡の百丈岩



写-18: 神戸市の水道用水でもある千苺ダムと千刈貯水池

4-3 秩序ある土地利用「安全と安心をめざして」

秩序ある土地利用計画を進めるため、資材置き場など景観に影響を及ぼす恐れがある土地利用については、地区内で協議し調整を図る。当面区域変更は計画しない。



農村用途区域の設定

- (1)「農業保全区域」 ほ場整備による優良農地のまとまりを中心として散居家屋等を含めて指定されている。
- (2)「環境保全区域」 里山等を主体として指定されている。
- (3)「集落居住区域」 指定なし。
- (4)「特定用途区域」 尼崎学園（児童養護施設）が特定用途 A 区域（1.3ha）として、富士チタン工業㈱の工場地帯が特定用途 B 区域（3.3ha）として指定されている。

4-4 新鮮で安全な農産物を供給する農業振興「活力ある持続型経済をめざして」

(1) 鳥獣被害防止対策

地域による鳥獣被害対策の集落点検マップ（侵入防止柵や檻の設置状況、放置果樹や目撃・被害発生場所等）づくりや、連絡網の整備や新たな捕獲人材を募集し、地域で育成していく。

(2) 農地保全・管理等

地域全員参加で話し合いを進め、自治会、農会、里づくり協議会、農業委員が協力して担い手を中心に集積・集約化を進める。また、多面的機能支払制度を活用し、農地保全に努める。

(3) 多様な経営体の確保・育成の取組

新たに神戸ネクストファーマー制度研修機関として認定を受けることで、計画地区内外から将来の新規就農にもつなげていく多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していく。

※農業に関する主な計画は 2025 年 3 月 31 日策定の「地域計画」に記載



写-19: 田圃下での
黒大豆イベントに
参加したボーイ
スカウト神戸第 60 団

4-5 快適な住環境の整備「整備された環境や施設の魅力増進をめざして」

(1) 防災・防犯対策

急峻な山斜面や河川も多数有するため、災害への備えや対応は重要である。防災対策には行政との対応協議を引き続き進めていき、災害時は各戸の災害時避難行動調査票により迅速な対応を行う。既存の集落内の危険箇所や避難経路等を記したハザードマップを確認し、住民で情報を共有することで、緊急時に備える。また、春日神社または生野中央公園を防災広場として活用できないか検討する。

防犯カメラの設置などの対応を行っているが、今後も県警車両による巡回を要望するなどの対策を行う。

(2) 里山整備

里山整備支援事業を活用し、竹林や雑木林等の森林整備(伐採、間伐)に取り組む。

今後は行政とも共同し、里山の樹木を家具や床材等の材木や備長炭などに加工し、活用を検討する。里山散策と農業体験を含めた観光資源として将来性を見出し、資源循環型社会のモデル地区を目指す。

(3) 環境学習

子供たちが自然に親しむことができるよう、生き物調査や虫が生息できる環境づくりを進め、千苺水源池(浄水場)や下水処理場を水資源と水辺環境学習の教材利用とする。



写-20:生き物調査に参加した子供たち

4-6 里づくりの情報発信「伝統文化の継承と情報の発信をめざして」

(1)伝統行事『雀のお頭』

伝統行事を継承していくためには、住民の多くに呼びかけるとともに、講習会などを実施し、内部組織の再編を行って郷土文化を継承していく。



写-21:太福寺の「雀のお頭」制作風景

(2)SNS の活用

生野里づくり協議会が管理する Facebook・Instagram から活動を発信することで、興味関心を示す層を取り込む工夫をする。

『生野里づくり計画の方針と課題解決へ向けた展開表』

3 課題解決に向けた展開 2 計画の目標と方針	展開 1 地域計画	展開 2 竹取プロジェクト:	展開 3 太陽と緑の道整備	展開 4 定住人口増加促進:	展開 5 美しい景観と環境づくり
4-1 展開する関係する人びととの協働と参画	1) 農地維持にむけた取り組みとしてネクスファーマー養成機関の認定受け新規就農者の養成。	2) 亀治の竹林や里山を生かして多様な関係する人びと増加に向けた取り組み。(こうべ森と木のプラットフォームとの連携)	3) 静ヶ池・鎌倉峡等の整備し自然との共生人口増加に向けた取り組み	4) 宅地や空き家利用に向けた取り組み	5) 人を迎える美しい景観づくりと安心安全な環境づくり。
4-2 自然豊かな生態系の保全と形成	1) 農地や水路の生物などの環境学習や農業体験などを体験型地域資源として展開	2) 竹林や里山の資源を有効循環利用する取り組み(こうべ森と木のプラットフォーム参照)	3) 希少野生動物の観察や保全による関係する人びと増加に向けた取り組み	4)	5) 地震・台風・水害・火事等の災害に応じた避難場所の確保および定期的な避難訓練の開催
4-3 秩序ある土地利用	1) 農業保全区域は圃場整備による優良農地 23.1ha 指定。水害時の浸水・土砂災害対策	2)	3) 「KOBE 太陽と緑の道」鎌倉峡、千苺大岩岳コースの倒木処理や道標整備による山岳事故対策	4) 危険箇所や避難経路、避難箇所をハザードマップで情報共有	5) 違法業者による開発を抑制し、住みよい住環境および美しい景観を保持
4-4 新鮮で安全な農産物を供給する農業振興	1) 集約運営により維持する農業から生かす農業を目指す。	2) 伐採した竹をチップし、有機堆肥として地区の田畑に利用	3) 体験型農園とアウトドアスポーツの融合	4) 耕作放棄地発生の防止と活用。農の担い手育成と新たな居住環境の整備	5) 駅前広場において定期的に朝市を開催し、地産地消の推進および野菜農家の販路拡大
4-5 快適な住環境の整備	1) アライグマ、イノシシ、シカ等による農作物の獣害対策	2) 竹伐採などによる地区内の景観維持への取り組み	3) 里山整備支援事業を活用し、農地や居住地に隣接した里山の竹林や雑木林などの森林整備	4) 農地・里山・生活エリアの環境美化への取り組み	5) 神社仏閣等歴史的建造物の維持管理。コミュニティ交通の整備。

4-6 里づくりの情報発信			里山の漆の木から作る郷土文化『雀のお頭』を継承するため、住民主体の組織で講習会を実施 制作後継者育成の記録と情報の発信	道場町の移住促進チーム「たすき」と連携し、地区内の居住可能な宅地や空き家予備軍の事前把握、移住・就農希望者との情報の共有と発信	SNS による情報の発信・交流
---------------	--	--	--	---	-----------------



写-22:竹取プロジェクト作業後に出現した満開の桜

5章 まとめ

少子高齢化、人口流出は日本全体の課題である。特に、市街化調整区域における農地の利用・保全、生活環境の整備・維持、森林の保全、里山の整備・管理、水災害への対応など、地域社会の安全・安心の維持が難しくなっており、生野も例外ではない。そこで、生野の里づくり 2024 計画アジェンダでは、既存の「生野に定住する人」「生野に関わる人」「生野につながる人」を再評価し、〈関係する人びと〉として増やしていくかを課題とした。

生野の人と自然の共生ゾーンの「農業保全区域」を囲む「環境保全区域」と「緑地の保全・保存区域」には、JR 道場駅を起点に神戸市が整備した 2 つの自然歩道がある。

この「太陽と緑の道」を楽しむハイカー、鎌倉峡でキャンプを楽しむ家族連れ、船坂川で溪流トレッキングを楽しむ人、百丈岩、不動岩、烏帽子岩でロッククライミングを楽しむ人など、世代を超えて自然観察やアウトドアスポーツを楽しむ「生野につながる人びと」がいる。

そして約 30 年前に開設された市民農園では、野菜や花を作り始めたひとたちが、合鴨農法で米作り、味噌や梅干しやハーブの加工をおこなった。やがて仲間を作り、里山を整備して椎茸栽培、養蜂、竹チップの粉を使った堆肥づくりなどをおこない、人と自然が共存する農的暮らしの体験を楽しみながら、「生野と深く関わっている」。

2024 年度に実施した竹取プロジェクトでは、アウトドアスポーツを楽しむ「生野に縁のある人」、農的な暮らしを体験する「生野に縁の深い人」、そして「縁でつながる」新たな人たちとの出会いがあった。その中には、自然豊かな生野に住みたい人、生野で農業を学びたい人、生野で自然と農業を組み合わせたビジネスを始めたい人などがいた。生野にゆかりのある人から、より生野につながりたい人、より生野に関わりたい人、生野に定住したいという新しい人まで、あらたな〈関係する人びと〉が生まれた。

多様な〈関係する人びと〉が増えることで、農業後継者の確保、農地を活用した経済活動の活性化、生活環境の改善、森林・里山の保全などが期待される。

具体的な展開は、第 4 章で紹介した「生野の実施プログラム」に〈関係する人びと〉との協働により、生野の自然豊かな生態系の保全と形成、新鮮で安全な農産物を供給する農業の振興、活力ある持続可能な経済の創出を目指す。また、生野の環境や施設をより魅力的で住みやすいものに整備し、生野の村づくりの成果を情報発信することで、生野にゆかりのある人や新たに定住を希望する〈関係する人びと〉を受け入れる里づくりをめざしている。

あとがき

生野地区では、2008年に里づくり計画を策定した後、交流人口のための農業イベントを行ってきました。

そのような中で、都市部自治会との交流も始まり、その自治会の住民である齊木先生との出会いが生まれました。そのことが2015年に計画の見直しを始めるキッカケとなり、地区の課題をより洗い出して、現状を見つめた計画と実践を目指すこととなりました。

この新たな計画には交流人口から関係する人びとへと目標を移行していくことを目的と定義しています。日本中の農村が抱え、悩んでいる問題への挑戦です。

計画は立てただけでは解決になりません。結果は行動をおこさなければわかりません。

行動を起こすことにより、その波紋が広がっていき、点となっている活動が線となってつながることを、実践しながら実感しています。

そのような取り組みが面となり、時を超えて次の世代へ手渡すバトンになればと思います。

2025年4月 里づくり計画見直しワーキングメンバー



写-23:水久野から田圃、中野を望む武庫川に合流する船坂川と、その向こうに JR 道場駅

生野里づくり計画策定経過（資料）

年 月 日	実 施 内 容	参集者
平成 18 年 6 月 10 日	・里づくり計画策定事前調整打ち合わせ 里づくり計画策定の進め方について	協議会委員 10 名
平成 18 年 7 月 22 日	・里づくり計画策定に向けて活動開始 里づくり計画策定の進め方について	協議会委員 9 名
平成 18 年 9 月 16 日	・里づくり計画策定に向けて活動 集落の現状、課題等の作成について	協議会委員 22 名
平成 18 年 10 月 28 日	・里づくり計画策定に向けて活動 集落の現状、課題等の作成について	協議会委員 20 名
平成 18 年 12 月 9 日	・里づくり計画検討会 里づくり計画骨子（案）について	協議会委員 17 名
平成 19 年 3 月 10 日	・里づくり計画検討会 里づくり計画（素案）の作成について	協議会委員 20 名
平成 19 年 6 月 23 日	・里づくり計画検討会 里づくり計画（素案）の検討について	協議会委員 23 名
平成 19 年 8 月 25 日	・里づくり計画検討会 里づくり計画（案）の作成について	協議会委員 13 名
平成 19 年 10 月 27 日	・里づくり計画検討会 里づくり計画（案）のまとめについて	協議会委員 5 名
平成 20 年 2 月 23 日	・里づくり協議会総会 里づくり計画の決定・承認について	協議会委員 55 名
平成 28 年 4 月 22 日	・里づくり計画見直し打ち合わせ 里づくり計画の見直しについて	協議会委員 12 名
平成 28 年 6 月 24 日	・里づくり計画見直しに向けた現地調査 集落の現状把握、課題の整理	協議会委員 9 名
平成 28 年 9 月 2 日	・里づくり計画見直しに向けた検討会 里づくり計画の内容に関する個別協議	協議会委員 8 名
平成 28 年 12 月 9 日	・里づくり計画見直しに向けた検討会 里づくり計画の変更（素案）の検討について	協議会委員 10 名
平成 29 年 2 月 6 日	・里づくり計画の見直しに向けた検討会 里づくり計画にかかるアンケート内容について	協議会委員 10 名

年 月 日	実 施 内 容	参集者
令和4年11月26日	・里づくり役員会 里づくり計画見直し再開を承認	協議会委員 12名
令和5年7月5日～	・第一回里づくり計画見直しワーキング 以降毎月一回開催	構成員 4名
令和5年10月21日	・隣保会議（駅前、亀治、向井） 付箋マップづくり	協議会員 13名
令和5年10月27日	・隣保会議（中野上、下） 付箋マップづくり	協議会員 12名
令和5年11月4日	・隣保会議（水久野隣保） 付箋マップづくり	協議会員 9名
令和5年11月11日	・隣保会議（中央、水久野） 付箋マップづくり	協議会員 10名
令和5年11月18日	・隣保会議（田圃上、下） 付箋マップづくり	協議会員 13名
令和6年12月14日	・里づくり役員会 里づくり計画見直し策定に向けた報告承認	協議会委員 22名
令和7年4月12日	・里づくり役員会 里づくり計画見直し案を承認	協議会委員 21名
令和7年4月26日	・里づくり総会 里づくり計画見直し案を承認	協議会員 55名

生野里づくり協議会



竹取プロジェクト

私たちは、神戸市北区道場町の生野地区（JR道場駅周辺）で、自然環境や農業を守る活動などを行っている「**生野里づくり協議会**」です。生野地区では**放置竹林**が大きな課題となっています。

竹林をそのままにしておくと、田畑が竹に侵食され、イノシシによる獣害も広がります。また、景観上もよくありません。特に生野地区は桜が多いのですが、せっかくの桜も竹に隠れて電車の車窓からは見えない状況です。この竹林をどうにかするべく、

一緒に取り組んでいただける方を探しています！



ただ伐採するだけではなかなか進みません。**伐採後の竹の利活用**についても一緒に考えましょう！

伐採に必要な道具や竹を粉碎する竹チッパーなどは里づくり協議会で準備します。



徐々に広がる竹林。見えないがその奥には桜が…



右の木が桜。せっかくの桜も竹林で見えなくなる。

現場はJR道場駅から歩いてすぐのためアクセスは大変便利な場所です。

もし、ご興味がある方は、お気軽にお問い合わせください！

問い合わせ先

お気軽に
お問合せください

生野里づくり協議会 竹取プロジェクト

令和6年度の活動報告

令和7年1月から3月にかけて、竹取プロジェクトとして放置竹林の伐採作業を行いました。計5日間の作業でしたが、各日約30名~40名程度の参加者にお集まりいただきました。そのおかげで、目標としていたエリアの放置竹林はきれいになりましたが、生野地区にはまだまだ放置竹林が広がっています。今年度以降も引き続き竹林整備に取り組んでいきます。



作業前に注意事項等の説明



協力して竹を伐採していきます



伐採した竹は竹チップに！

伐採後の竹は竹チップにし、田畑の肥料等に利用しています。伐採後の竹の利活用については様々な可能性を秘めていますので、今後も竹取プロジェクトの参加者と考えていきたいです。おもしろい取り組みとしては、生野の竹チップを原材料に使用した、クラフトビール「**DOJO KAGUYA BREW**」が製作されました。
ドウジョウ カグヤ ブリュー



伐採作業箇所



Before



After こんなにきれいになりました！

